

# 第2章 長岡京市の概要

## 1. 社会的状況

### (1) 位置・面積と交通

本市は、京都西山の東、桂川・宇治川・木津川が合流して淀川となる地点の北にあり、京都盆地の南西に位置します。

北は向日市および京都市、東は京都市、南は大山崎町、西は西山を境として大阪府に接しています。

東西約6.5km・南北約4.3km、総面積19.17km<sup>2</sup>を占め、人口は令和4年(2022)現在、約8万人となっています。



図2-1 広域位置図

市内の公共交通機関には、JR 東海道本線 長岡京駅と阪急電鉄京都線 長岡天神駅・西山天王山駅があり、東側には名神高速道路・国道171号が縦走しています。

また、南西部を通る京都縦貫自動車道の長岡京 IC には、阪急西山天王山駅に直結する「高速長岡京」バス停が設置されるなど、交通の便に恵まれています。

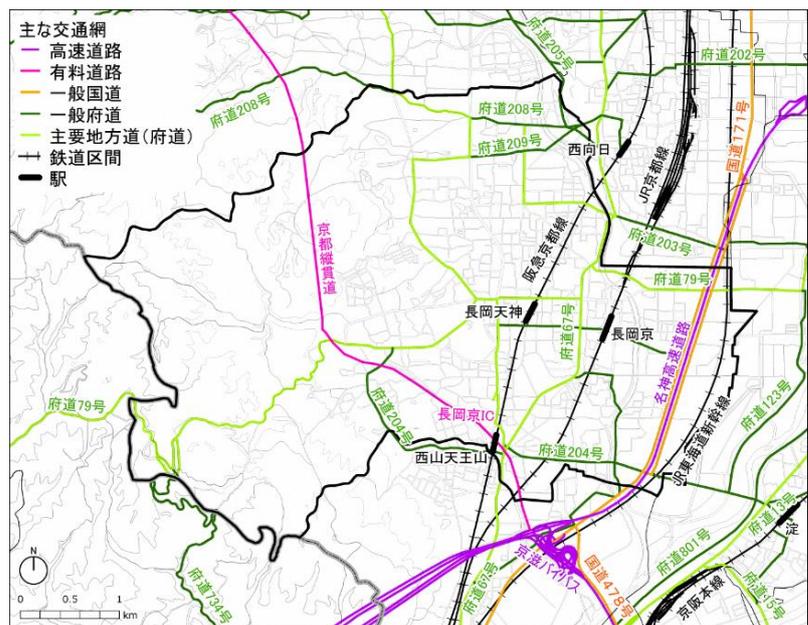


図2-2 主な交通網

出典: 国土数値情報・鉄道(平成29年度)、空間基盤データ 25000 より作成

## (2)市域の変遷

江戸時代、本市域は馬場・古市・神足・勝竜寺・調子・友岡・開田・奥海印寺・下海印寺・金ヶ原・浄土谷・今里・長法寺・粟生・井ノ内の15ヶ村が所在しました。明治22年(1889)町村制の導入によって、新神足村(馬場・古市・神足・勝竜寺・調子・友岡・開田)、海印寺村(奥海印寺・下海印寺・金ヶ原・浄土谷)、乙訓村(今里・長法寺・粟生・井ノ内)の3ヶ村となり、近世村落の名称は大字として残りました。

昭和24年(1949)、新神足村・海印寺村・乙訓村の3ヶ村が合併し、長岡町が誕生しました。

高度経済成長期には、京都・大阪の近郊地域という立地条件の良さから人口流入が続き、また工場の進出によって急速に都市化が進行しました。

人口は、昭和45年(1970)には5万人を超え、昭和47年(1972)10月1日に市制を施行して「長岡京市」となり、現在に至っています。

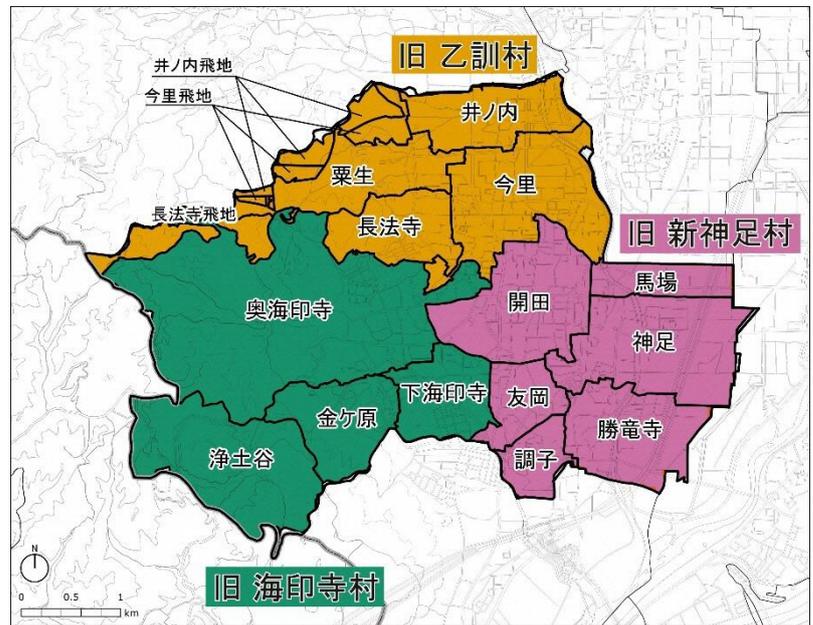


図2-3 旧村と大字界

出典:長岡京市史民俗編より作成

## (3)人口・世帯数の推移

昭和47年(1972)、市制施行当時の人口は56,867人を数えました。その後、一時減少した時期もありましたが、現在は微増傾向にあり、平成27年国勢調査による人口は80,090人となっています。

将来人口は、長岡京市人口ビジョンの推計(社会保障・人口問題研究所推計準拠)によって、令和2年(2020)をピークに減少し、令和17年(2035)に73,967人、令和27年(2045)には68,969人になると予測されています。



図2-4 人口・世帯数の推移と人口の将来予測

出典:国勢調査(※総人口には年齢不詳分を含む)

将来人口:第2期長岡京市人口ビジョン/まち・ひと・しごと創生戦略、平成28年(2016)2月

また、65歳以上の人口比率は、平成22年(2010)は21.2%でしたが、令和2年(2020)には26.8%となっており、ゆるやかに高齢化社会に移行しています。

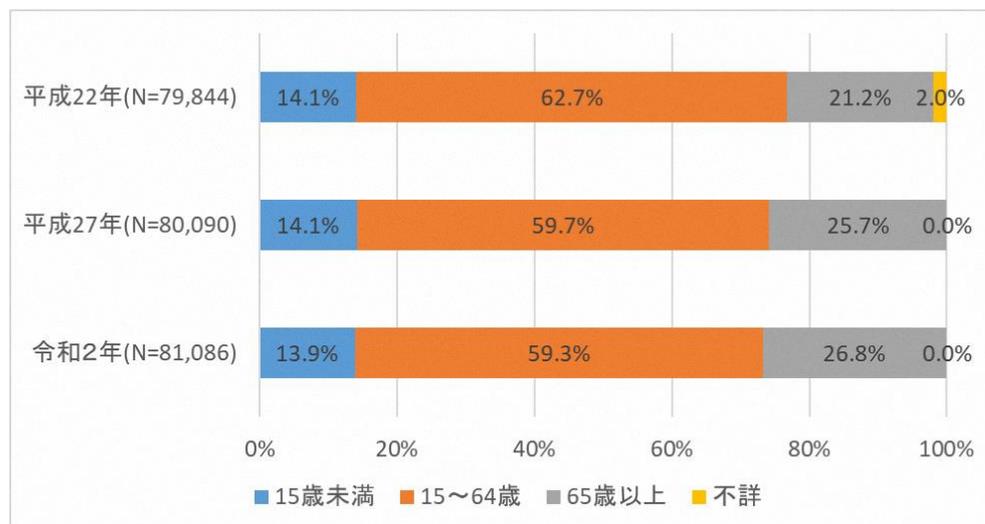


図2-5 年齢3区分別人口構成比の推移  
 出典:平成22年・平成27年国勢調査(各年10月1日現在)  
 住民基本台帳人口・年齢別人口集計表(令和2年(2020)4月1日現在)

#### (4)産業

産業別従業者数の割合(平成28年度)を見ると、「製造業」が31.3%と最も多く、次いで「医療・福祉(18.6%)」、「卸売業・小売業(15.4%)」となっています。

表2-1 産業(大分類)別従業上の地位別従業者及び構成比

区分	従業者数(人)	割合(%)	区分	従業者数(人)	割合(%)
農林漁業	4	0.0%	不動産業、物品賃貸業	813	2.7%
鉱業、採石業、砂利採取業	-	-	学術研究・専門・技術サービス業	769	2.6%
建設業	1,056	3.5%	宿泊業、飲食サービス業	1,840	6.1%
製造業	9,397	31.3%	生活関連サービス業、娯楽業	1,115	3.7%
電気・ガス・熱供給・水道業	67	0.2%	教育・学習支援業	1,311	4.4%
情報通信業	279	0.9%	医療・福祉	5,590	18.6%
運輸業、郵便業	1,352	4.5%	複合サービス事業	143	0.5%
卸売業、小売業	4,620	15.4%	サービス業(他に分類されないもの)	1,247	4.1%
金融業、保険業	464	1.5%	計	30,067	100.0%

出典:平成28年経済センサス活動調査

製造業では、国道171号の沿道を中心に事業所施設が立地しています。また、商業では、阪急長岡天神駅やJR長岡京駅を中心に、商店街やスーパーなどの小売店が集積しており、住宅都市に多い傾向となっています。農業をみると、タケノコやナス、花菜を乙訓地方の特産野菜として、都市農業経営が展開されていますが、農業従業者の高齢化による農家数の減少にともない、耕作地面積は減少傾向にあります。本市では、市内の遊休地に景観作物としてコスモスを栽培し、農地の活用と保全に取り組んでいます。

表2-2 農業の推移

区分	平成12年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
総農家数(戸)	450	415	386	361	322
農家人口(人)	2,067	1,195	1,021	881	690
経営耕地面積(a)	25,851	22,513	21,148	19,661	17,793
農業従事者平均年齢(歳)	54.1	56.0	57.1	59.3	61.7

出典:農林業センサス

※農家人口は、平成27年までは販売農家の総世帯員数、令和2年は農業経営体のうち、個人経営体の総世帯員数である。

## (5)観光

本市の観光入込客数について見ると、令和元年(2019)は約127万人あり、平成27年(2015)からの推移では横ばい傾向にあります。来訪目的は、「文化・歴史」が大半を占めています。



図2-6 目的別観光入込客数構成比の推移

出典:京都府観光入込客調査

令和元年(2019)の月別の観光入込客数の推移をみると、4~5月のクリスマスツツジの開花時期と、11月の紅葉、1月の初詣の時期に観光入込客数が多くなっています。

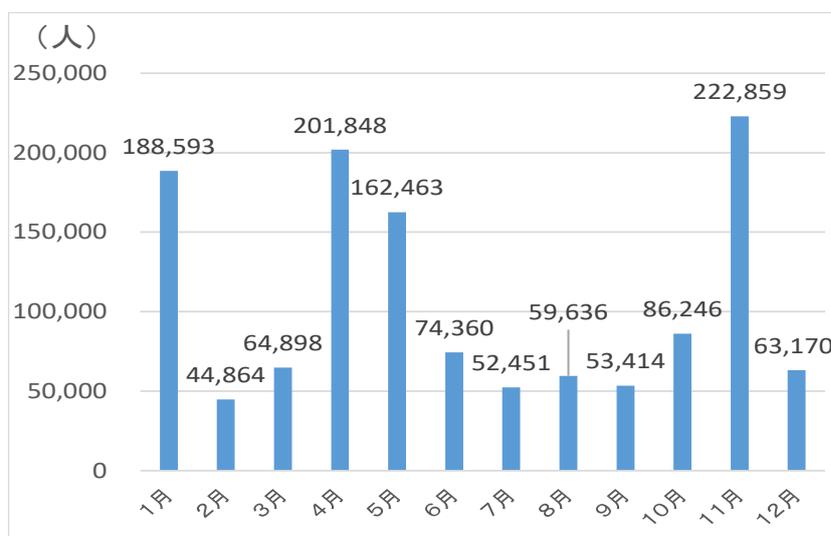


図2-7 月別観光入込客数

出典:令和元年(2019)京都府観光入込客調査

本市の観光入込客数に占める日帰り客・宿泊客別の構成比は、日帰り客が 99%以上で推移しており、ほぼ日帰り客となっています。

観光消費額の推移では、平成 27 年(2015)から令和元年(2019)にかけて増減しながら横ばい傾向にあり、直近の令和元年(2019)は5億 6,029 万円でした。日帰り客・宿泊客別の構成比では、日帰り客が概ね 85%、宿泊客が概ね 15%で推移しています。なお、コロナ禍の影響によって、令和2年(2020)の観光入込客数は約 64 万人に急減し、対前年比の約 50%に止まりました。

令和2年(2020)から運用される、京都府新基準における本市の日帰り客1人あたりの観光消費額は 2,105 円となっており、府内の平均以下であることから、本市は旅行や行楽の目的地として、イメージ形成されてないと推測されます。

表2-3 日帰り・宿泊別観光入込客数及び観光消費額の推移

出典：京都府観光入込客調査

年	観光入込客数(人)		観光消費額(千円)
	日帰り	宿泊	
H27	1,204,220	11,731	532,991
H28	1,266,331	12,992	575,993
H29	1,249,377	12,605	549,311
H30	1,209,545	12,939	553,244
R元	1,262,569	12,233	560,289
R 2	635,951	5,936	275,652
R 3	558,221	6,327	314,262

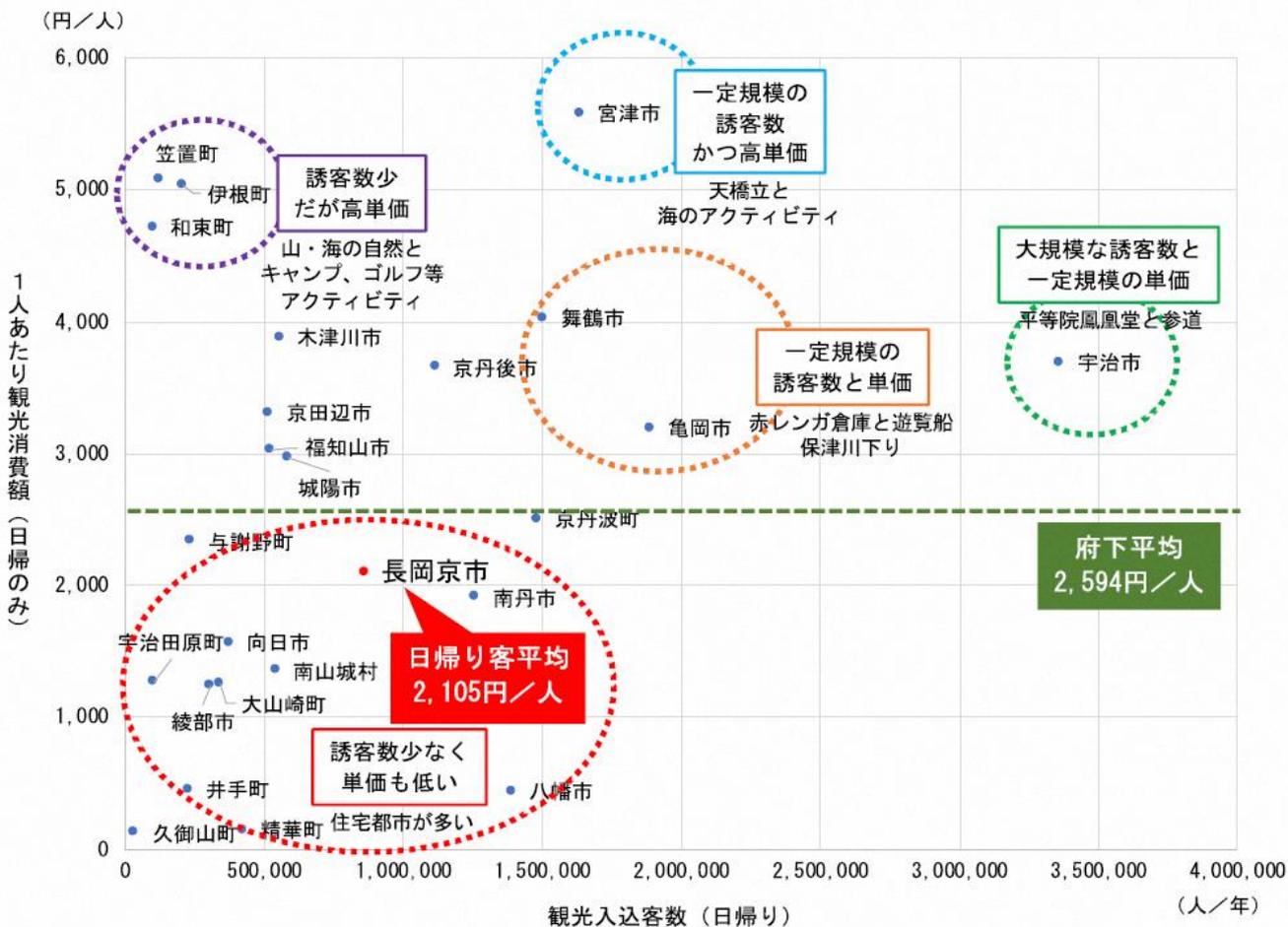


図2-8 府内の市町村の一人あたり観光消費額と観光入込客数との相関(日帰りのみ)※令和元年の数値を新基準に補正  
出典：新・長岡京市観光戦略プラン(改訂版)

## (6) 土地利用

市内の土地利用をみると、市中央部には建物用地(商業地)が集積しており、北部・南部は建物用地(住宅地)や田に利用されています。市の東部には、建物用地(工場や先端産業施設)が集積しています。また、市街地のなかに、土地利用としては田と扱われる生産緑地が分布していることが本市の特徴となっています。

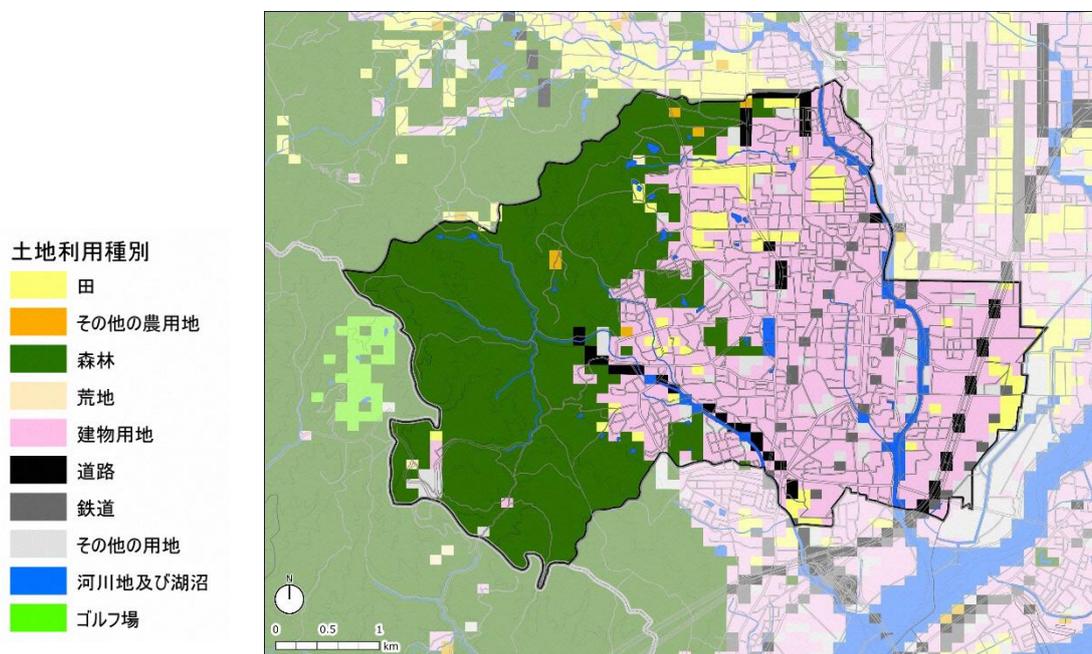


図2-9 土地利用状況

出典:国土数値情報土地利用細分メッシュデータ(平成28年度)

## (7) 法的規制等

長岡京市内における法的な規制等がある緑地は、西山を中心とする山林で指定されているものと市街地内の農地等で指定されているものとに大別されます。

市街化調整区域である市域の西部が、「近畿圏の保存区域の整備に関する法律」に基づき、近郊緑地保全区域に指定されています。森林法に基づく区域指定をみると、上述の西山周辺は、地域森林計画対象民有林となっており、楊谷寺周辺の樹林地(11.4ha)は、京都府決定の楊谷寺文化財環境保全地区となっています。

市街地内の生産緑地は、平成4年(1992)には217地区・92haでしたが、所有者の高齢化などの理由で解除されたものがあり、令和3年(2021)12月末現在では、181箇所・55.76haが指定されています。なお、本市の北部市街地にはまとまった規模のいわゆる穴抜け市街化調整区域があり、大半が「農業振興地域の整備に関する法律」に基づく農業振興地域(農用地区域)となっています。

また、風致地区は、長岡天満宮および光明寺周辺の樹林地等に指定され、京都府風致地区条例のもとに規制・運用されています。

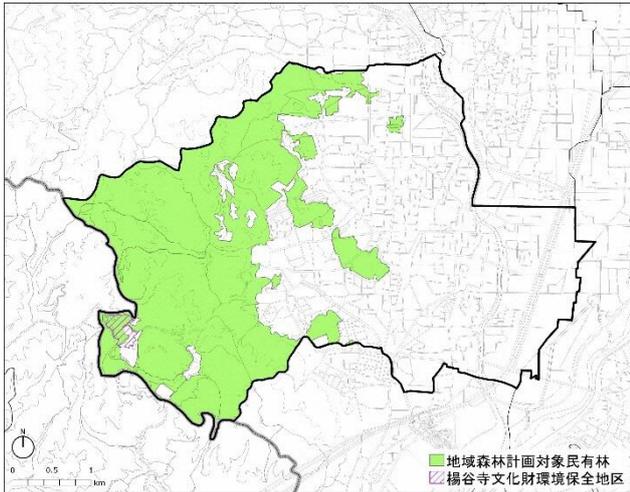


図2-10 森林法に基づく区域指定と文化財環境保全地区  
出典:国土数値情報 H27 森林地域、京都府資料

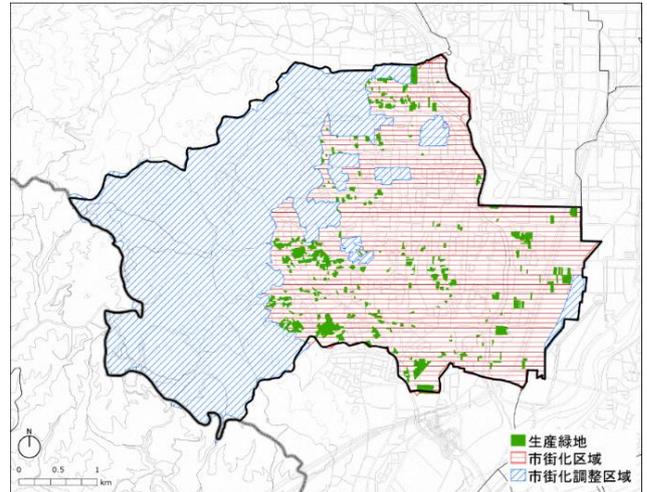


図2-11 生産緑地  
出典:生産緑地地図データ(令和3年12月末)

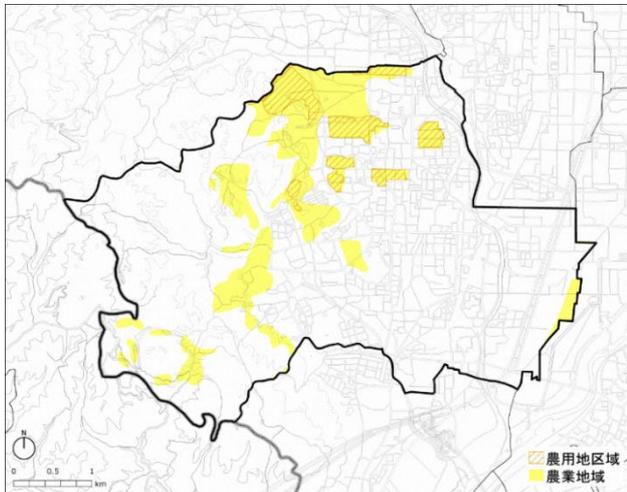


図2-12 農業振興地域の整備に関する法律に基づく区域指定  
出典:国土数値情報 H27 農業地域

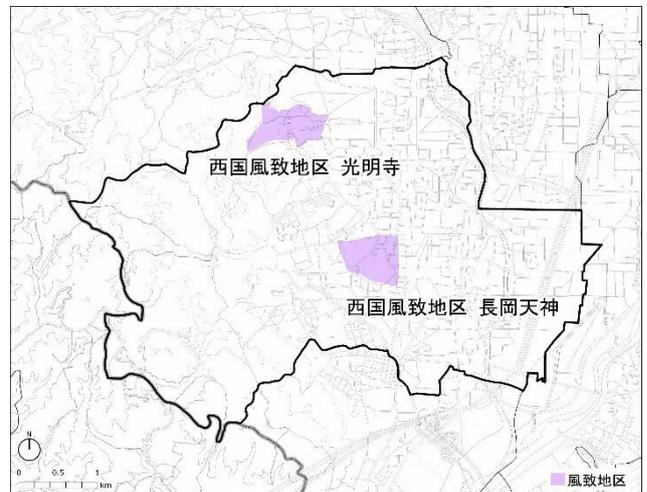


図2-13 風致地区に基づく区域指定  
出典:長岡京市都市計画図(H30.3版)

表2-4 風致地区

地区名	指定日	面積/主な区域	概要
西国風致地区 長岡天神	昭和5年 2月1日	約33.0ha/ 天神2丁目、梅が丘1丁目	長岡天満宮を中心とした地区。天満宮に隣接する建築物は和風の意匠で緑豊かなものも多く、また八条ヶ池、長岡公園や竹林を中心とした緑地空間があり、良好な風致景観が形成されている。これらの周辺には、住居と企業の事業所からなる市街化区域があり、一部には市街化調整区域もある。
西国風致地区 光明寺	昭和42年 4月15日	約36.0ha/ 粟生	西山浄土宗の総本山で法然上人ゆかりの光明寺を中心とした地区。紅葉で名高い光明寺の境内林を中心に周辺には竹林が多くある。寺の周辺には緑豊かな和風住宅と西山短期大学があり、住宅の半数は伝統的な農家住宅。全域が市街化調整区域である。

## (8)歴史文化の展示等に関わる施設

本市の歴史文化の展示等に関する主な施設として、長岡京市埋蔵文化財調査センター・中山修一記念館・勝竜寺城公園管理棟があります。その他、市内の小学校や観光案内所、中央生涯学習センター、市民ギャラリー、事業所などでも展示等を行っています。また、国登録有形文化財である石田家住宅(神足ふれあい町家)や中野家住宅(なかの邸)は、貸室や飲食店として広く公開・利用され、親しまれています。さらに、恵解山古墳や今里大塚古墳、開田城跡土塁、勝龍寺城土塁・空堀跡など、都市公園として整備されているものもあります。こうした市内の歴史文化に関する施設や寺社等を有機的に結び活用する、まちなか博物館ネットワークの具体的な構築が課題となっています。(仮称)長岡京市ふるさと資料館は、そのネットワークの中核として、地域住民が「調べる」「学ぶ」「伝える」活動を行うことができる施設として位置付けられ、現在建設中の市役所新庁舎への整備を検討しているところです。

### ①長岡京市埋蔵文化財調査センター

昭和60年に旧海印寺浄水場を改修して開設しました。事務棟(展示室)・研究棟(収蔵庫)・整理棟(図書室)からなり、埋蔵文化財に関わる調査・研究の拠点となっています。施設や収蔵資料の管理、展示や資料の貸し出し、来所者の受付などを公益財団法人長岡京市埋蔵文化財センターに委託して運営しています。常設展は、主に江戸時代までの通史展示で、毎年秋には特別企画展として、エントランスも活用した企画展を開催しています。



長岡京市埋蔵文化財調査センター(展示風景)

### ②中山修一記念館

長岡京の歴史解明に多大な業績を残した中山修一氏の足跡と、発掘調査研究の成果を公開する施設として、平成14年(2002)に開館しました。長岡京をはじめとする郷土学習の拠点施設として、また京都府のミュージアムフォーラムなど、他施設とも連携した取組を進めています。



中山修一記念館

### ③勝竜寺城公園(勝龍寺城跡)管理棟

平成4年(1992)に都市公園として整備され、管理棟内で発掘調査による出土遺物や細川藤孝書状(複製)の展示、パネルや映像による勝龍寺城の歴史解説を行っています。また、園内では発掘調査で発見された石垣なども見学することができます。



勝竜寺城公園の模擬天守風管理棟

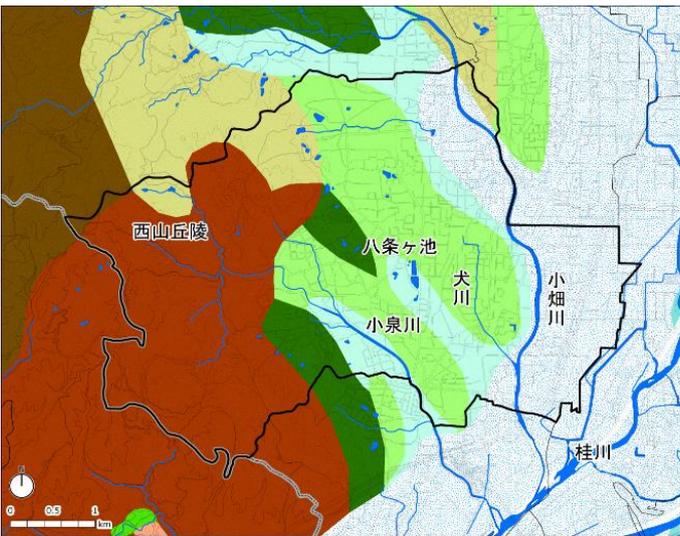
## 2. 自然的・地理的環境

### (1) 地形・地質

本市域の地形は、北西に 400~450m の高地、南東方向に低地が連なり、総面積の約 4割を占める西部の西山と、中央部の段丘地、そして小畑川・犬川・小泉川によって形成された、沖積平野で構成されています。また、本市域は西山を水源地として、地下水が豊かな地域ですが、山麓には農業用ため池が多く分布します。西山丘陵の土壤分類をみると、長年にわたるタケノコ栽培、竹の生産を目的とした敷きわらや客土を行ってきた土壤が、「人工未熟土壤」として区分されていることが特徴的です。



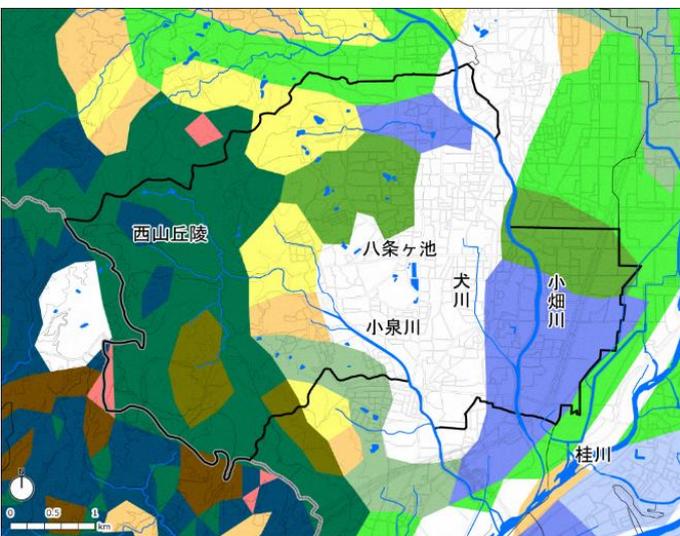
図2-14 西山から市街地への緑の流れ  
出典：長岡京市景観計画



- 山地
  - 中起伏山地
  - 小起伏山地
  - 山麓地Ⅱ
- 丘陵地
  - 小起伏丘陵地
- 台地・段丘・砂礫台地
  - 砂礫台地(中位)
  - 砂礫台地(下位)
  - 段丘(中・低位)
- 低地
  - 三角州性低地
  - 扇状地性低地
  - 自然堤防・砂州・砂丘
  - 内水面

図2-15 地形区分

出典：20 万分の 1 土地分類基本調査(地形区分)、数値地図 25000(空間データ基盤)より作成



- 未熟土
  - 人口未熟土壤
- 褐色森林土
  - 乾性褐色森林土壤
  - 乾性褐色森林土壤(黄褐色)
  - 乾性褐色森林土壤(赤褐色)
  - 褐色森林土壤(赤褐色)
- 赤黄色土
  - 赤色土壤
  - 黄色土壤
- 灰色低地土
  - 細粒灰色低地土壤
  - 灰色低地土壤
  - 粗粒灰色低地土壤
- グライ土
  - グライ土壤
  - 細粒グライ土壤
- 内水面

図2-16 土壤分類

出典：20 万分の 1 土地分類基本調査(土壤分類)、数値地図 25000(空間データ基盤)より作成

## (2)気候

本市は、瀬戸内海東部気候区の東端に位置しており、一般に降水量が少なく、厳しい夏の暑さと底冷えの冬で特徴付けられます。<sup>やましろぼんち</sup>山城盆地特有の晴れの日が多く、おおむね温和な気候であり、京都市内の盆地気候よりも、のぎやすいとされています。

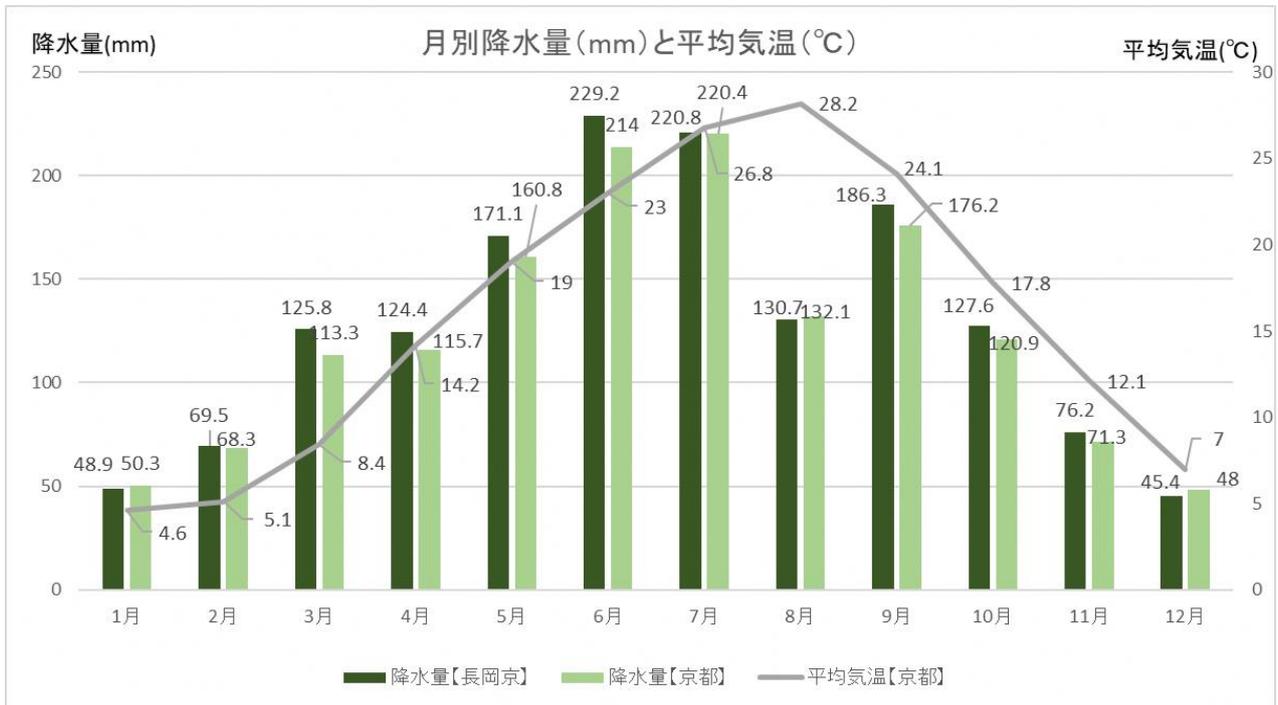


図2-17 月別降水量と平均気温(昭和56年(1981)~平成12年(2010)の平年値)

出典:気象庁各種データ・資料より作成(観測地点「長岡京」では降水量のみ計測。)

## (3)生態系

植生の大半は二次林で占められていますが、西山山麓の一部に「アラカシ群落」、<sup>ながおかくんまんぐう</sup>長岡天満宮周辺に「カナメモチ-コジイ群集」の常緑広葉樹の自然植生が残されています。また、西山山麓ならびに、市街地中心部にも竹林が広がっていることが本市の植生の特徴です。

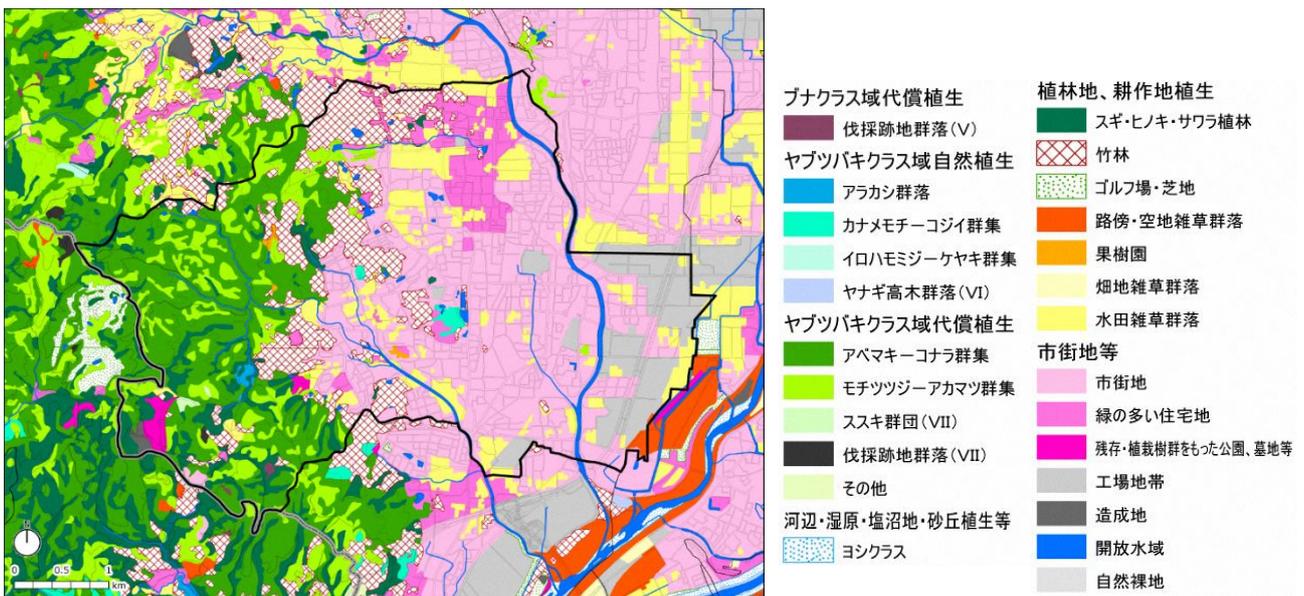


図2-18 植生図

出典:第6回・第7回 自然環境保全基礎調査(植生調査)(環境省自然環境局生物多様性センター)より作成

本市では、下表のように天然記念物5件(府登録1件・市指定4件)、景観重要樹木1件、保存樹木 15 件が指定されています。「保存樹木」とは、健全で樹容が景観上特にすぐれており、高さが概ね 10m以上・1.5mの高さにおける幹の周囲が概ね 1.5m以上であることなどを指定基準とし、緑の保全及び緑化の推進を図ることを目的に、長岡京市生活環境の向上等に関する基本条例の規定に基づく、「長岡京市緑化推進要綱」及び「長岡京市緑化推進事務取扱要領」により、本市が指定した樹木です。これら保存樹木の保全・育成を図るため、(公財)長岡京市緑の協会と協力し、樹木の所有者に対して助成を行っています。

表2-5 天然記念物一覧

名称	区分	所在地	樹齢	指定・登録年月日
寂照院のモウソウチク林	京都府登録天然記念物	奥海印寺明神前31	—	平成24年(2012)3月23日
(光明寺の)ビャクシン(柏楨)	長岡京市指定天然記念物	粟生西条内26-1	400~500年	昭和52年(1977)11月3日
(長岡天満宮の)キリシマツツジ	長岡京市指定天然記念物	天神二丁目15-3	100~150年	昭和53年(1978)11月3日
(浄土谷の)ヤマモモ(楊梅)	長岡京市指定天然記念物	浄土谷船ヶ谷	500~600年	昭和53年(1978)11月3日
乙訓寺のモチノキ	長岡京市指定天然記念物	今里三丁目14-7	400~500年	平成7年(1995)11月3日

表2-6 景観重要樹木一覧

指定番号	名称	樹齢
1号	八条ヶ池中堤のキリシマツツジ	150年

表2-7 保存樹木一覧

指定番号	名称	幹周(m)	樹高(m)	樹齢(年)	所有者	所在地
2	開田城土塁公園のクスノキ	約3.8	約20	200	長岡京市	天神一丁目
5	長岡天満宮のイチヨウ	約2.2	約20	100	長岡天満宮	天神二丁目
6	光明寺のモミ	約2.9	約20	300	光明寺	粟生西条内
7	光明寺のケヤキ	約2.3	約20	200	光明寺	粟生西条内
8	長岡天満宮のムクロジ	約3.2	約20	200	長岡天満宮	天神二丁目
9	長岡公園のシイ	約2.9	約20	130	長岡京市	天神二丁目
10	光明寺のモミジ	約1.4	約7	150	光明寺	粟生西条内
13	楊谷寺のヤマモモ	約1.9	約15	200	楊谷寺	浄土谷ノ谷
14	走田神社のヤマモモ	約1.9	約12	150	走田神社	奥海印寺走田
15	赤根天神社のシイ	約3.4	約20	150	赤根天神社	今里四丁目
16	子守勝手神社のモミ	約2.8	約25	150	子守勝手神社	粟生清水谷
17	勝竜寺城公園のムク	約2.4	約20	150	長岡京市	勝竜寺
18	神足小学校のセンダン	約1.8	約8	100	長岡京市	神足三丁目
19	乙訓寺のクスノキ	約3.4	約20	—	乙訓寺	今里三丁目
20	角ノ宮神社のクスノキ	約3.4	約10	—	角ノ宮神社	井ノ内南内畑

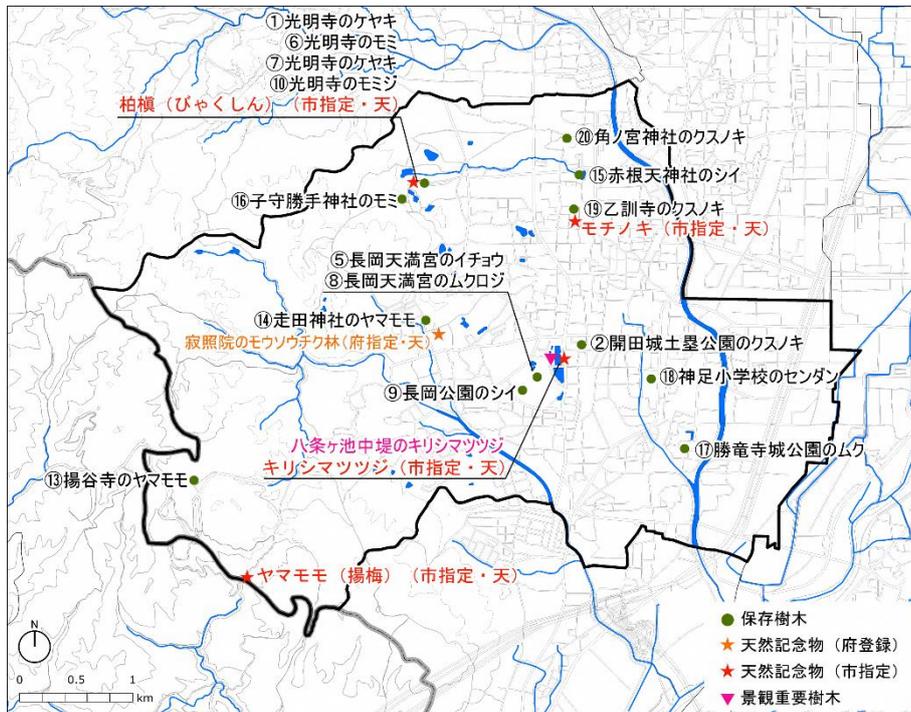


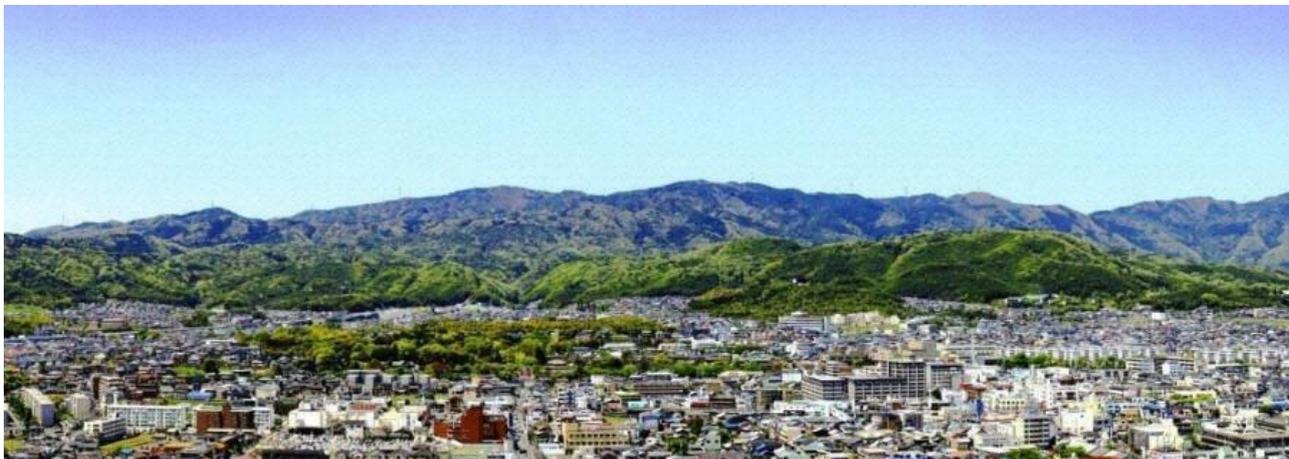
図2-19 保存樹木等位置図

#### (4)景観

本市の景観は、西山や竹林などの特徴的な自然を基盤として、寺社や遺跡など、市民が日々の営みのなかで継承してきた歴史的な遺産が分布していることが特徴です。さらに、街道沿いの建築物や道標などの構造物と、まちの賑わいや市民の暮らしの雰囲気などが重なることによって、長岡京市らしい景観を成立させています。また、多様な生態系を育む自然環境も景観を構成する重要な要素のひとつであり、この環境を守り育てることが良好な景観の形成につながっています。

本市では、このすばらしい景観を次世代に引き継ぐため、平成20年(2008)に「長岡京市景観計画」を策定し、景観づくりの方針や、建物・工作物の色やデザインなどの守るべき基準を定めました。また、この計画に基づく景観づくりをさらに具体的に進めていくため、平成21年(2009)には「長岡京市景観条例」を制定し、市民・事業者・行政がともに景観のよさを共有できるようなまちづくりを推進しています。

長岡京市らしさを形作る代表的な景観として、市街地の背景となっている「西山」、農林業などの生業と結びついた緑の景観があり、季節の移ろいや懐かしさを感じさせる「竹林・田畑」、市中心部に位置し、八条ヶ池や桜並木を有する「長岡天満宮」、古い家屋や城跡、石畳の道がみられる「西国街道～勝竜寺周辺」などが挙げられます。



市街地から西山を望む

出典：西山森林整備構想(西山森林整備推進協議会)

### 3. 歴史的背景

#### (1) 先史

##### ① 旧石器時代

本市域における人々の営みのはじまりは、まだ土器作りを知らなかった、約2～3万年前から約1万2千年前に遡ります。このころには、現在とほぼ同じような地形であったと考えられており、本市域南部段丘上に位置する、京都府内最古級の南栗ヶ塚遺跡や俗遺跡、また北部の今里遺跡でナイフ形石器や旧石器時代の地層から出土したサヌカイト製の石片が確認されています。下海印寺遺跡でも約1万年前、旧石器時代から縄文時代草創期にかけての石器が発見されており、このころには本市域で広く人々の活動が跡づけられます。



今里遺跡などのナイフ形石器と剥片  
出典：長岡京市埋蔵文化財センター年報(S59)他

##### ② 縄文時代

小畑川流域を中心に22の縄文遺跡が確認されています。なかでも、伊賀寺遺跡では、石囲い炉を備えた竪穴住居や北陸・山陰から運ばれてきた特殊な石材を含む、玉作りに関わる遺物が見つかっています。その他の遺跡でも、サヌカイトや他地域で作られた土器が出土しており、広域に及ぶ活発な交流が窺えます。



伊賀寺遺跡の竪穴住居  
出典：『京都府遺跡調査報告集』第36冊

##### ③ 弥生時代

小畑川扇状地に立地する雲宮遺跡は、京都盆地で最も早く稲作が伝わった、弥生集落として知られています。稲作は、ここを拠点に上里遺跡・今里遺跡・南栗ヶ塚遺跡などへ伝わったと考えられています。農耕の開始・進展などから、列島各地で争いが起こったとされており、外敵や害獣から村を守る環濠跡が、雲宮遺跡や神足遺跡、長法寺遺跡などでも確認されています。丘陵上に位置した谷山遺跡は、戦乱に備えた砦、あるいは狼煙による通信所の役目を担った、高地性集落と考えられています。



雲宮遺跡の弥生土器  
出典：長岡京市埋蔵文化財センター年報(S63)他

## (2)古代

### ①古墳時代

階層分化が進み、これまで共同墓地に埋葬されていた首長の墓が単独で造られ、銅鏡などの副葬品をとまなうようになりました。前期に造られた本市域最古の長法寺南原古墳は、竪穴式石室に三角縁神獣鏡などが副葬され、ヤマト王権との結びつきが窺えます。中期の恵解山古墳は、乙訓地方最大の前方向後円墳で、約700点の鉄製武器を納めた埋納施設をもち、ヤマト王権で重要な地位に就いた人物の墓とされています。後期には井ノ内稲荷塚古墳や井ノ内車塚古墳、長法寺七ツ塚古墳群などが造られました。また、本市域には継体12年(518)継体天皇によって「弟国宮」が置かれ、都として機能しました。



整備前の恵解山古墳

### ②飛鳥時代・奈良時代

古墳に代わって権威のシンボルとなった古代寺院に、乙訓寺・鞆岡廃寺が知られます。乙訓寺は、乙訓地方に唯一現存する古代寺院で、寺伝によれば推古天皇の創建といわれています。鞆岡廃寺では、7世紀前半の瓦が出土しています。大宝元年(701)に制定された大宝律令によって、都に繋がる官道が造られ、各道の要所に駅家などが整備されましたが、本市域では丹波・山陰方面に向かう山陰道(古山陰道)と、西国に通じる山陽道が知られています。

### ③長岡京時代・平安時代

延暦3年(784)、新都造営と東北征夷を積極的に行うことで、新しい王朝の成立を内外に明らかにする意図をもっていたといわれる桓武天皇によって、奈良平城京から水陸の便の良いこの地に都が遷され、「長岡京」が造営されました。長岡京の大極殿や朝堂院などは現在の向日市に、東西市や貴族の邸宅などは本市域に、港(津)は大山崎町・京都市伏見区淀付近に所在しています。東西市はまだ発見されていませんが、推定地の神足では漆器工房や鍛冶工房が見つかり、付近では鋳物工房などさまざまな工房施設も確認されています。遷都から10年後、都が平安京に遷された後も、この地域は



長岡京の発掘調査

河川及び陸上交通で重要な役割を担いました。交通の要衝として境界祭祀も行われ、弘仁元年(810)の藤原薬子の乱など、有事には本市域からほど近い、淀・山崎がしばしば警備・封鎖されています。清少納言の『枕草子』に、「岡は、船岡。片岡。鞆岡は、笹の生ひたるがをかしきなり。かたらひの岡。人見の岡」とあり、一条兼良の『染塵愚案抄』所収の神楽歌にも「この篠はいづこの篠ぞ舎人らが腰にさがれる鞆岡の篠」と歌われたように、鞆岡を中心とする長岡は、竹の生育する地として王朝貴族に知られるようになりました。山陽道、後の西国街道は、多くの人々が往来し、本市域には鞆岡荘や調子荘、開田荘、散在型の小塩荘といった荘園が置かれるようになります。乙訓地方は朝廷に仕仕する一部の官人たちの居住地、あるいは人口十数万人に達する大都市、平安京に絶えず食料を供給する場として、京都を支えました。

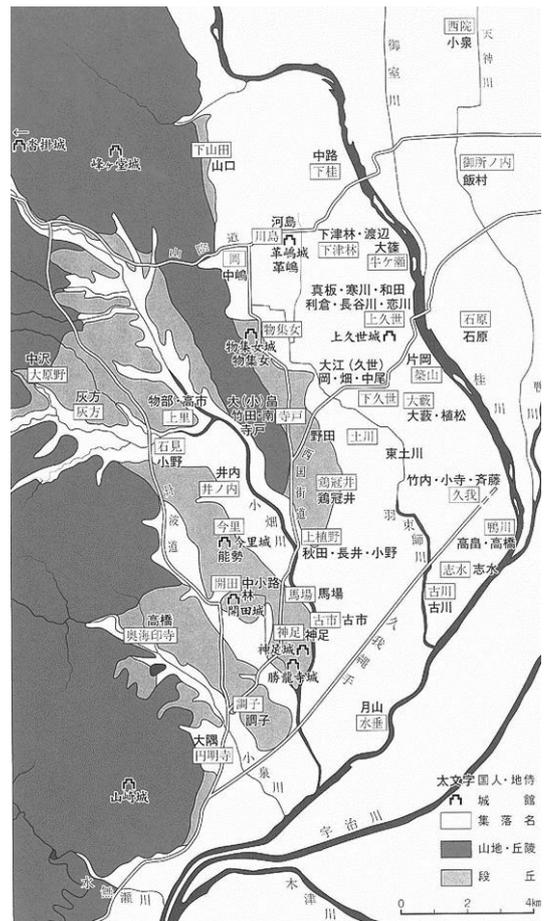
### (3)中世

#### ①鎌倉時代

空海が別当として入寺し、最澄が訪れるなど、古代寺院として栄えた乙訓寺でしたが、このころには法皇寺と称され、室町時代から江戸時代前期にかけては南禅寺派の禅宗寺院であったことが知られます。仁和寺開田院や海印寺、勝龍寺が顕密仏教の寺院として、法然の遺骸を茶毘に付した廟所から興った光明寺が、浄土宗西山派の拠点の一つとして展開しました。

#### ②南北朝時代・室町時代・戦国時代

桂川から西山の麓まで、丘陵を含む範囲が14世紀中頃以降、西岡と呼称されるようになり、地理的・歴史的なまとまりを示す地名として、広く使われます。西岡は京都近郊農村として、京都の都市機能を支える一方、しばしば戦乱に巻き込まれました。それは、鎌倉末・南北朝内乱における開田の林実広・神足の神足信朝、応仁・文明の乱における寺戸(向日市)の野田泰忠らの活躍からも知られます。彼ら土豪・地侍は西岡衆と呼ばれ、室町幕府御家人に編成されますが、次第に守護と主従関係を結ぶようになります。山城国は、幕府の膝下として、守護が比較的短期間で交代したこともあって、西岡衆も幕府の有力家臣にそれぞれ属し、また時期によってその主を変えました。一方、15世紀前半、農業先進地であった京都を中心とする畿内近国は、貨幣経済の浸透を背景に、荘園制支配の変質に乗じて勢力を拡大した高利貸資本に対抗して、広範な民衆を巻き込む徳政一揆などの土一揆が頻発します。西岡は、その根拠地の一つとして知られますが、再三の武力蜂起のなかで、土豪・地侍は村の指導者としての立場を確立していきました。それは、応仁・文明の乱後、西岡衆が向日宮で集会して連帯し、「国持ち」として自ら乙訓郡の支配を目指した、乙訓惣国として結実します。西岡衆は、村では庶民を率いる指導者でしたが、同時に有力大名の命令を受ける立場にあり、加えて彼らはしばしば現地管理者として、その荘園領主に仕えました。



西岡周辺の土豪・地侍  
出典:勝龍寺城関係資料集

### (4)近世

#### ①安土桃山時代

京都の西の玄関口であった西岡は、応仁・文明の乱が終結しても、室町幕府・細川氏・三好氏及びその家臣らによる権力闘争のなかで、争乱の地となりました。さまざまな顔を持ち、局面によって複雑な立場で離合集散し、独自に勢力の維持・拡大を図った西岡衆でしたが、永禄11年(1568)足利義昭を奉じた織田信長の上洛とその政権の確立によって、その一部は勝龍寺城に入った細川藤孝(幽斎)の家臣団に組織されました。このころから、「長岡」の名字を名乗るようになった藤孝でしたが、天正8年(1580)には家臣団とともに移封され、その後西岡は信長直轄となりました。本能寺の変に続く山崎の戦いで、勝龍寺城を一時拠点とした明智光秀を退け、豊臣秀吉が政権を握ります。秀吉の太閤検地によって、権利が錯綜した状態にあった荘園制が解消され

ます。村境が確定し、本市域では 15 ヶ村を数えました。また、西国街道の整備も、秀吉による朝鮮出兵を契機にしたものと記録されています。

## ②江戸時代

本市域は、西国街道周辺を中心に、細川藤孝の隠居料所または在京料所、次いで豊国社の所領が大きく占めた時期もありましたが、江戸幕府の統治が安定してきたころには、15 ヶ村のほぼ全てが幕府領や旗本領、禁裏方の所領や宮家領、公家領、さらには寺社領が一筆毎に入り組んだ、相給の村であったことが知られます。寛永10年(1633)から慶安2年(1649)にかけて、徳川家光側近の永井直清が神足館(陣屋)に入り、幕府の上方支配の一翼を担った期間のほかは、幕末に至るまで大名領は存在しませんでした。神足館は、勝龍寺城の整備に取りかかったところ、折しも周辺が浸水し、水が引かなかったため、直清がその北側に新造したものです。摂関家に供奉する隨身である調子家が引き続き在住したことも、本市域の地域的特徴をよく示しています。一村に複数の領主がいる相給村は、個々の領主単位で支配が完結しないため、村々の自治が領主支配を補いました。それは、自ら村掟を定め、村有財産を管理するなど、生活・生産の共同体であった村の運営を通じて養われたもので、背景には地域の村々の連合、山の土砂留めやため池の増築及び悪水抜きといった山野や水利の管理による農業生産の発展、寺子屋の普及や文化人の活動による地域文化の向上がありました。本市域の竹やタケノコ、野菜などの農産物は、京都に送られ、その生産に欠かせない下肥が、京都からもたらされました。これらを運んだ淀川水系の水運だけでなく、西国街道・丹波街道の交通路としての重要性も継続しており、丹波からの荷物が陸路、淀川を臨む浜へと運ばれました。また、大坂市場とも結びつき、神足の商人の広範な活動もありました。

戦国の兵火によって荒廃していた本市域の寺社は、楊谷寺・光明寺・長岡天満宮・乙訓寺に代表されるように、17世紀から18世紀初めごろにかけて復興の礎が築かれます。『都名所図会』をはじめとする京都案内に掲載され、洛西の名刹として、また景勝の地として多くの参詣者が訪れました。

幕末になると、京都近郊に位置する本市域も維新の動乱に巻き込まれます。元治元年(1864)禁門の変では京都や大山崎が戦火に遭うなか、光明寺は長州藩の屯所とされました。各村からはたびたび人夫や竹などの資材が徴発され、なかには領主の公家に従って、北陸征討にまで出陣した者もいました。



江戸時代の村と町の様子(笹井家本洛外図屏風より)  
出典:長岡京市史 本文編2



都名所図会にみる長岡天満宮  
出典:『新修京都叢書』11

## (5)近代(明治・大正・昭和初期)

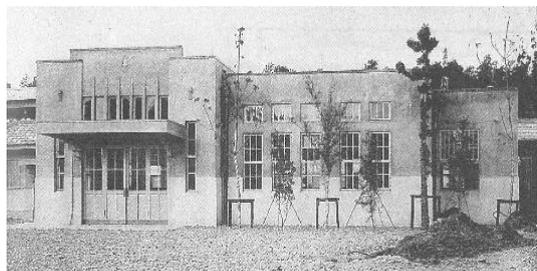
新政府の樹立を経て、本市域も京都府の下で近代国家の統一的な体制に編成されます。15の近世村落は、明治9年(1876)土地が混在していた古市村と神足村とが合併して神足村となり、14ヶ村となりました。区戸長制・組

戸長制など目まぐるしく行政区画が変遷しましたが、明治 22 年(1889)市制町村制の施行によって、新神足村・海印寺村・乙訓村の3ヶ村となります。西国街道を中心に東部の低地と段丘部からなる新神足村、西部の山間部から段丘部に広がる海印寺村、両村の中間的な様相であった乙訓村は、各村 2,690 人・1,039 人・1,416 人の人口を擁しました。

長法寺小学校・神足小学校は、明治の初めに設立されました。合併当初、乙訓村役場・新神足村役場がそれぞれに併設され、両校は尋常小学校として義務教育を担っただけでなく、地域のコミュニティセンターとしても機能し、その後昭和9年(1934)の室戸台風による被害や翌 10 年の2度にわたる小畑川堤防決壊による水害など、さまざまな問題に村を挙げて取り組みました。

地域の近代化推進に大きな契機となったのが、昭和3年(1928)の新京阪鉄道長岡天神駅(現在の阪急電鉄長岡天神駅)と、同6年(1931)の省線神足駅(現在の JR 長岡京駅)の設置です。長岡天神駅周辺には長岡運動場・長岡競馬場・タキイ種苗長岡研究農場が開設され、神足駅周辺には次々と工場が進出しました。

近世以来、本市域は都市近郊農村として、また山地・丘陵・段丘・低地と変化に富んだ地形条件を活かして、米麦を中心にさまざまな農産物の栽培し、農業経営に合わせた多様な商工業を営んでいましたが、特にタケノコは明治時代前半に一時衰え、代わって製茶が普及するものの、その後鉄道輸送による販路の拡大によって盛り返し、地域経済の一翼を担うようになりました。竹材としての竹も、大正7年(1918)乙訓郡竹林同業者組合が結成され、同 12 年(1923)乙訓郡役所には竹林経営にかかると専任技術者が配置されており、重要な物産であったことが知られます。



新設当時の駅舎(神足駅完成記念絵はがき)

出典:長岡京市史資料集成3 長岡京市の景観

## (6)現代(昭和戦後・平成・令和)

終戦直後、地方自治法の公布によって全国的に市町村合併が押し進められ、乙訓郡でもさまざまな動きが見られましたが、昭和 24 年(1949)新神足村・海印寺村・乙訓村からなる長岡町が誕生します。合併翌年に行われた国勢調査では、人口は 10,614 人で、未だ農村風景が広がっていましたが、昭和 30 年(1955)ごろから人口が増え始め、高度経済成長のなかで、昭和 35 年(1960)から同 40 年(1965)の5年間で 1.83 倍に、続く昭和 40 年から同 45 年(1970)の5年間では 1.87 倍に急増して5万人を超えます。それにもない、戦前には2校であった小学校が、10 校に相次いで増やされ、中学校も4校開設されました。こうした人口の飛躍的な増加は、京都と大阪のベッドタウンとして、通勤者のための住宅建設が中央部から西部にかけて急増したためです。



昭和 30 年代の八条ヶ池とタキイ種苗長岡研究農場  
提供:タキイ種苗株式会社

一方、戦前に敷設された産業道路が国道 171 号として、昭和 38 年(1963)開通の名神高速道路と合わせて整備され、東部に新しい工場地帯が形成されます。また、長岡天神駅を中心とする中央部への商業施設・銀行の進出や文化・公共施設の建設、伝統的なタケノコやナスに代表される生産性の高い農業の推進などが取り込まれました。このように、地域的に平行して工場立地・宅地開発・都市農業振興などが進展したことにより、本市域はバランスのよい都市的発展を遂げていきます。昭和 47 年(1972)には市制を実現し、全国で 643 番目、京都府下で 10 番目となる、現在の長岡京市が誕生しました。

京都市および大阪市の中心まで、それぞれ約 10km と約 30km に位置し、両市ともに JR・阪急電鉄が通じます。加えて、平成元年(1989)京都縦貫自動車道の香掛―大山崎区間、京都第二外環状道路が計画決定されます。開通には時間を要しましたが、平成 25 年(2013)西山山麓に沿った広域幹線道路網が整備され、阪急電鉄との

交差点には新たに西山天王山駅が設けられました。本市域の交通利便性はさらに高まりましたが、一方で、京都と大阪の衛星都市でありながら、そのみに依存しない、これまで長岡京市の発展を支えてきた、工業・商業・農業のバランスが近年大きく変化しています。工場の市外への移転や研究開発部門への転換、放置竹林の増加や市街化を抑制していた生産緑地の減少などが確認されており、まさに今、転換期を迎えています。



昭和40年(1995)ごろの神足駅東の工場地帯

出典:長岡京市史資料集3 長岡京市の景観

## (7)くらしの歳事と食文化

本市の各地区には、伝統的と思われる生活文化や伝承文化が現在も確認できます。なかには、近世の古文書に、類似する祭礼・行事が見出されます。歳時としてまとめると下表のとおりです。

表2-8 長岡京市の歳時記(1/4)

参考文献:長岡京市教育委員会『長岡の語り部—21世紀への伝承—』

月	日	歳時・暦	内容	地区
1月	元日	除夜の鐘	鐘は全員つける。甘酒等の接待等がある。	乙訓寺・光明寺・勝龍寺
		初詣で	氏神や菩提寺に参る。	各地区
		厄除け餅	数え年の前厄、本厄、後厄の男子に対して、嫁の実家等から一升どりの餅、金火箸(上部が鎖でつながった物)が送られ、当人は正月三日の間にすべて食すことによって厄がのされる。	各地区
	2日	仕事始め(切り初め)	包丁、鍬等の使い初め。	各地区
		御座	19歳の若衆が十二人衆の年寄りと酒杯を交わす。	長法寺
	3日	書き初め	長岡天満宮では1日から3日まで行った。	各地区
	4日	山初め	山仕事を初めてする。	奥海印寺・金ヶ原・浄土谷
	5日	寒の入り(小寒)	ぜんざいを食べる。	各地区
	7日	七日正月	朝に餅入りの七草がゆを食べる。	各地区
	8日	やしやご	菩提寺へ1歳児が参る。	久貝
		境(さい)祭り	昔、村の境界争いで犠牲になった夫婦をしのび祝る。	下海印寺
		八日ぶき	年寄衆5人が集まり、矢射講の打合せ。	井ノ内
	9日	山ふさがり	山の神様が種を蒔くので山に入れない日。	奥海印寺・浄土谷
	10日	勧請縄(勘定縄)	走田神社の大しめ縄づくり。	奥海印寺
		伊勢講	伊勢皇太神宮をまつり、かしのすき焼き等で親睦会を開く。	各地域(日は異なる) 代参を決める
	12日	節会(せっちえ)	赤根天神社で五穀の豊作を祈る。	今里
	13日	お千度	走田神社でお千度参り。おにぎりの接待。	奥海印寺・長法寺
弓講		走田神社での矢射行事を行う。	奥海印寺	
十三日講		「お汁講」といい、走田神社を祀り、ご飯と汁で会食をする。	奥海印寺・長法寺	
14日	お日待ち	天照皇太神宮の掛軸を掛け、当家で会食し、日の出を待つ。鶏は食べないこととされている。	各地区	

表2-9 長岡京市の歳時記(2/4)

月	日	歳時・暦	内容	地区	
1月	15日	とんど(小正月)	しめ縄・古いお札・書き初めを燃やす。妊婦のいる家では、その火に青竹を差し込み、ポンと大きな音がしたら男の子、小さかったら女の子が生まれるという。また、その青竹を置いておくと蛇が近寄って来ないという。	各地区	
	16日	寒供養	狐や狸に餌を与えて、家畜被害を少なくしようとした行事。	神足	
		やぶいり	村から嫁いだ人や離村した人が、子どもを連れて親元へ帰ってくる日。	各地区	
	17日	伊勢講	天照皇太神を祀り、会食をする。	浄土谷	
	中旬	勘定掛け	勝龍寺本堂の毘沙門天に大しめ縄を奉納する。	勝竜寺	
	21日	弘法湯(大師講)	お大師さんの湯が立てられる。	馬場・開田・今里を中心に昭和30年頃まで各地にあった	
2月	1日	日供(にっく)	日供という講があり、年末に向日神社に新米を献じ、この日に赤飯・大根・人参等で会食をする。	馬場・今里	
	上旬	節分会(せつぶんえ)	節分の日に悪疫追放の祈願をし、豆まきで悪鬼を追い出す。肥桶を鋤でこすって音を出し、家の敷地内のモグワを追い出す。	各地区	
		初午		当家に集まり酒宴を行う。	神足
				伏見稲荷に参拝し、狐やほていさん(伏見人形)を買い、神棚に飾る。	各地区
				長岡天満宮で甘酒の接待や福引が行われる。	氏子社中
				長法稲荷では参拝者にぜんざいがふるまわれる。	長法寺
		御座	小倉大明神の掛軸を掛け、座衆を招宴する。	氏子社中(各区で日は異なる)	
	6日	策餅(さっぺい)	葉のない竹笹に餅を花びらのようにつけてお供えし、豊作祈願する。	今里(11月にも行う)	
	9日	矢射講	15歳の成人を祝う。	粟生	
	10日頃	菜種の御供(ごく)	赤根天神社で、灯明を何百と献灯し、菜種の豊作を祈願する。	今里(年によって日は異なる)	
	11日	夜叉講	当家に集まり、豊作を祈願する。	今里	
	13日	餅座	当家に集まり徹夜で餅つきを行う。二月座・宮座は塩味の小豆餅を作り、小倉神社にお供えし、座中に配る。	小倉神社氏子社中	
	14日	涅槃会(ねはんえ)	釈迦如来にアラレを供え、そのアラレを食べるとマムシに噛まれない。	各寺院	
15日	涅槃講	年寄り五人衆が集まり、矢射講の勘定をし、宴会を行う。	井ノ内		
17日	備射	長法寺本堂前の矢場で、弓を射る。	長法寺		
3月	1日	茎座	小倉神社の神職が当家で御幣を作り、神前にお供えする。その時、当家の息子に一老、二老が付き添う。	久貝	
	3日	ひな祭り	桃の節句といい、昔は、旧暦で4月3日に行われていた。	各地区	
	20日 前後	彼岸講	地区の長老が集まり、念仏講や鉦講により法要が行われる。	各寺院	
		尼講	各寺院で御詠歌を唱え、先祖の供養をする。	各寺院	
	25日	梅花祭	長岡天満宮へ献茶する。氏子婦人会が奉仕する。	開田	
28日	たど祭	田蔵大明神で豊作を占う。	久貝		
4月	3日	榊さし	旧神武祭の夜、榊を氏子の各家と村の境界にさして回る。	下海印寺	
	8日	花まつり	釈迦像に甘茶をかける行事。	各寺院	
	24日	稚児精進入り	稚児・宮年寄り・当家が神社に参拝する。	小倉神社氏子社中	
	25日	鉦講(かね講)	光明寺で鉦打ちを行う。	井ノ内	
		御忌(ぎょうき)	光明寺にて法然上人の法要が行われ、善男善女が各地から参拝する。	光明寺	
30日	馬座	小倉神社の馬座。当家は1年間精進して勤める。先祖の供養をする。	古市(在)		

表2-10 長岡京市の歳時記(3/4)

月	日	歳時・暦	内容	地区
5月	1日	雷よけ	角宮神社で雷よけの祈願を行う。	井ノ内
	6日	戸渡し	小倉神社の御神体の移動を行う。 お宮移し。 当家がえ。	小倉神社社中 金ヶ原(2月1日) 久貝(3月3日)
		足やすみ(足あらい)	祭りで神輿をかついだ若者たちの足休めで、酒宴をする。	小倉神社社中
6月	上旬	大井手上げ	各農業用水路の草刈り、泥あげや井堰を点検する。	各地区で田植えの時期により、日を決める
	下旬	お千度	氏神に田植えの終了を報告し、五穀豊穡を祈願する。	各地区
		さなぶり	田植え休み。農家ではぼたもちなど馳走を作り、骨休めをする。	各地区
	31日	水無月	だんごを神棚に供える。	各地区
7月	2日	半月至(はんげっしよ) (半夏至)	田植えの遅い地区では、この日が田植え休み。また、上半期の掛け取りの日でもあり、半年分の費用の精算、借金の返済日。	各地区
	7日	今井川の井手上げ	義民九左衛門の命日にあたり、村中全員が今井川の井手さらえをする。昔からこの日は必ず雨が降るといわれている。	今里
	下旬	田の虫送り	割り竹と藁でたいまつを作り、火をつけ、薄暮から鉦を打ちながら、水田の周りをゆっくりと歩く。稲の害虫(メイチュウ)の防除。	各地区
		雨乞い	6月～8月で干ばつになると神社や寺で祈禱し、灯明の火を戴き、大火(おおび)を上げる。	各地区
8月	10日	十日参り	新仏のある家では、六波羅蜜寺へお参りし、初盆の品物を購入する。	各地区
	上旬(6・7・8・9・11日)	墓掃除・参り	野墓の掃除をし、花筒等を取り換え。墓参りは嫁いだ者も出稼ぎしている者も全て一緒に家族全員でお参りする。	各地区
	中下旬	施餓鬼(せがき)	寺で先祖代々の供養の法要を行う。新仏のある家は粗供養をだす。	各寺院
	13日	精霊迎え	夕方に川のほとりの十字路で線香に火をつけ、1本は道のほとりに立て、先祖の精霊は線香の煙に乗って我が家に帰るといふ。夏野菜・夏の果物を供える。	各地区
	14・15日	棚経	寺の住職が各家の仏前で読経する。	各寺院
	16日	精霊送り	仏前で線香を供え、盆の供物と線香を持って、迎えにいった場所まで精霊を送る。	各地区
	21日	万燈会(まんとうえ)	日限地蔵に灯籠を供える。	乙訓寺
	23日	地蔵盆	寺や道端のお地蔵さんを祀り、子どもたちにはお菓子などを与え、地蔵和讃や御詠歌で供養する。	各地区(日は異なる)
	25日	盆おどり (豊年おどり)	長岡天満宮で若者が夜遅くまで踊る。洛西地区ではその年初めての盆踊り。	開田 以後各地区で行われる
	下旬	行者講	有志青年行者が大和の大峰山に参拝し、行者としての修行をする。	各地区
9月	1日	八朔(はっさく)	収穫の無事を祈る。	小倉神社氏子社中
	4日	七兵衛内想助供養 (道喜さん)	昔のご恩に報いるため、年1回のお逮夜を行って供養する。	金ヶ原
	8日	八日薬師	菩提寺で薬師如来を祀る。	古市・各寺院
	上中下旬	お千度祭	「八朔祭」「初朔祭」「ぼうぜん祭」といって氏神で豊作祈願する。	各地区 (日や呼び方は異なる)
	20日	土砂講 (豊年おどり)	地区の安全と無病息災を祈願する。洛西地区で最後の盆踊り。	今里(乙訓寺)
彼岸講		春の彼岸と同じ。	各地区	
10月	1日	お千度	厄日(台風の季節)が過ぎ、実りを感謝して、氏神でお千度を踏む。	各地区 本来は暦で辰の日に行うが、近年は日曜日
	上中旬	野道作り 山道作り	秋の取り入れを前に、野道や山道の整備を行う。	各地区
		秋の節句	栗飯や新米で餅をつき、八方の神や先祖に供えて感謝し、親類に配る。	各家で日は異なる
11月	上旬	い 亥の子	暦で亥の日にぼたもちを作り、仏前に供える。子どもは稲藁を固く束ねたもので地面を叩き、ポンポンと音を出し、歌を唄いながら各家を廻る。	各地区

表2-11 長岡京市の歳時記(4/4)

月	日	歳時・暦	内容	地区
11月	8日	お十夜	菩提寺に新米を供え、先祖の供養をする尼講。御詠歌をあげる寺もある。	各寺院(日は異なる)
	17日	お火焚き	火の祭りで、子どもは稲藁を集めて金に代え、お菓子等を購入して分配する。青年は「力持ち」で力を競い、夜遅くまで楽しむ。	各地区(日は異なる)
		七五三参り	数え年の3歳・5歳・7歳になる子どもが正装で氏神に参り、成育を祈願する。	各地区
	中旬	伊勢講	当家にて皇太神宮を祀り、会食をする。	今里 第2・3日曜日
	18日	えぼし 烏帽子	18歳になった若者が、年寄り十二人衆と杯を酌み交わす。	長法寺
23日	やしるび 社日 (髪置)	「かみおき」ともいい、3歳児を祝って、氏神に参り、成長を祈る。子孫に履物を贈る。	各氏神(日は異なる)	
12月		大勘定 (村勘定)	区の1年間の経費を各家より徴収。支払いもこの日にする。(収支決算日)	各地区(日は異なる)
	6日	榊さし	氏神の「お火焚き」の夜に氏子の各家と村の境に榊を挿してまわる。	下海印寺(4月と同じ)
	7日	山の神	行者講のひとつ。	浄土谷
		境祭り	昔、村の境界争いで犠牲になった夫婦を偲び祀る。	下海印寺
	8日	八日ぶき	寺の大勘定日で、1年間の費用を徴収する。	今里 (各寺院で日は異なる)
		事初め	すす払いをし、この日より正月準備をする。特にしめ縄はこの日以後に作り始める。	各地区
	20日	果ての二十日	この日は1年間で一番不吉な日といい、昔は罪人の断罪の日でもあった。何事も控え目に行う。	各地区
		冬至 (村勘定)	ひょうたんかぼちゃ(鹿が谷かぼちゃ)を食べる。	各地区
	25日	山手寄せ	山の管理のお礼として、新米を贈る。	神足から浄土谷へ
	28日	申上げ	昔は、当家に町内の全家族が集まり、夕食を共にした。	馬場
31日	大晦日	夕方、神仏に洗い米・塩・酒を供え、1年の無事を感謝し、家族全員で食事。	各地区	

また、本市の歳事には飲食がともなうことも多く、さまざまな食文化が散見されます。歳時における食文化は、下表のようにまとめることができます。

表2-12 長岡京市の食文化(1/2)

参考文献:長岡京市教育委員会『長岡の語り部—21世紀への伝承—』

月	日	歳時・暦	食事名	内容	地区
1月	元旦~3日	正月三が日	お雑煮	丸餅・頭芋・大根・小芋・白味噌	各地区
			煮しめ	ごまめ・数の子・煮豆(黒豆)・にらみ鯛・たたきごぼう・小芋・人参・くわい・焼き豆腐・蓮根	各地区
		寒の入り	ぜんざい		各地区
	7日	七日正月	七草がゆ	せり・なずな・ごぎょう・はこべ・ほとけのざ・すずしろ・すずなの七草がゆに、塩味の丸餅。	各地区
	中下旬	伊勢講	すき焼き	本来はあひるを用いるが、最近はかしわも使われる。	各地区
	13日	十三日講		お汁とひろろすで会食をする。	走田神社十三日講中
	14日	お日待ち	すき焼き	あひる、またはかしわ。	各地区
	15日	小正月	小豆がゆ	小豆がゆに、塩味の丸餅。	各地区
	17日	伊勢講	すき焼き	あひる、またはかしわ。	浄土谷
		寒供養	小豆ご飯	小豆ご飯と揚げ豆腐を食べる。	神足

表2-13 長岡京市の食文化(2/2)

月	日	歳時・暦	食事名	内容	地区
1月	17日	やぶいり	ぼたもち	米7・餅米3の割合の餅に、小豆あんをつける。嫁が里帰りに持っていく。	各地区
	中旬	勤定掛	ぜんざい等	丸大根・油揚げ・ぜんざい	勝竜寺
		大寒～節分	寒餅 かきもち	砂糖味のきな粉餅を作り、近所や親戚に配る。かきもちを作る。	各地区
2月	1日	日供養	赤飯等	赤飯・大根・ごぼう・人参・油揚げ・こんにゃく等で会食する。	馬場
	3日(2日)	節分	いわし・豆	いわしの塩焼き・年越し豆(大豆)	各地区
	6日	策餅	すき焼き等	餅で花びらを作り、かしのすき焼きを食べる。	今里 (年により日は異なる)
		初午	赤飯等	小豆入り赤飯・揚げ豆腐・畑菜のからし和え	各地区
3月	3日	ひなまつり	ひし餅 三色あられ		各地区
	11~13日	御座	小豆餅等	小豆餅・水菜のひたし・大根や人参のなます・うるめ	小倉神社社中
	15日	涅槃会	あられ	「お釈迦さんの鼻くそ」といった、餅米で作ったあられ。	各寺院
		彼岸	おはぎ 炊き込みご飯	おはぎ・炊き込みご飯を仏壇に供え、尼講は菩提寺で会食する。	各地区
	下旬	木の芽だち	よもぎ餅	よもぎ餅を作り、近所や親戚に配る。	各地区
4月	上旬	花見	花見だんご	米7・餅米3の割合で団子を作る。色は食紅やよもぎで三色にする。	各地区
5月	5日	端午の節句	ちまき	米粉6・糯米粉4の割合の砂糖味のちまき。鞆の葉で包む。	東部地区
			かしわ餅 かしわだんご	柏の葉で包む。	西部地区
6月	中旬	お千度	おにぎり等	おにぎり・煮しめ・すめ・昆布	各地区
	下旬	田植え休み	ぼたもち等	ぼたもち・かしわやあひるのすき焼き	各地区
	31日	水無月	水無月だんご	小麦粉と炭酸を練り合わせ、小豆餡を包み蒸す。	各地区
7月	2日	半夏生	半夏生だんご	小麦粉とかぼちゃを練って蒸す。	各地区
8月	14日	精霊まつり	ぼたもち等	ぼたもち・茄子のごま和え・あらめ	各地区
	盆		いとこ汁	小豆・千両ナス・かぼちゃ入りの味噌汁	浄土谷
10月	1日	お千度	煮しめ	小芋・ごぼう・焼き豆腐・煮豆・枝豆・こんにゃく・棒だら	各地区
	祭礼日	秋祭り	すき焼き 鯖寿司等	かしのすき焼き・鯖寿司・小豆餅・栗おこわ・巻き寿司	各地区
	下旬	秋の節句	栗赤飯	栗おこわ・餅	各地区
11月	8日	お十夜	ぼたもち		各地区(日は異なる)
	亥の日	亥の子	ぼたもち		各地区
	辰の日	索餅	すき焼き等	花びらの餅・かしのすき焼き	今里
	17日	お火焚き	赤飯等	赤飯(栗・小豆入り)・ほうれん草のごま和え	下海印寺 (各地区で日は異なる)
	中旬	伊勢講	すき焼き	あひる、またはかしわ。	各地区(日は異なる)
		五合どり	小豆餅	砂糖味の小豆餅(糯米5合、小豆1合半)を1人で食べる。菓の芯で切って食べる。	各地区
23日	社日	赤飯	赤飯を近所や親戚に配る。	地区により髪置ともいう	
12月	7日	山の神	小豆餅	5合の餅に塩味のアんこをつける。	浄土谷
		冬至	かぼちゃの味噌だき	中風のまじないとして、鹿ヶ谷かぼちゃを食べる。	各地区
	31日	大晦日	そば等	長寿を願い、そば・うどん・いわし等の長いものを食べる。	各地区